

神遊 第17回公演

神遊五周年記念特別公演

# 道成寺

KAMIASOBI  
The 5th ANNIVERSARY  
DOHJOH-JI



私たちが能楽師として此の道を進みだしてから、今日に至るまで、数多くの舞台を勤めさせて頂きました。意を共にする能楽師と神遊を発足し、積極的に自主公演も催して参りました。そして此度の神遊五周年記念公演は、神遊としてはもちろん、能楽師としてもとても大切な節目であり、一同、粉骨碎身の思いで勤めさせて頂きます。能に対する真摯な姿勢、敬虔な態度を無くして精進はあり得ません。諸先生方、師である父、そして皆様方に、この日の舞台を厳格たる目でご覧頂き、新たな前進に繋げたいと切望しております。世の中が目まぐるしく動く時代、私たちは確固たる態度で腰を据え、流れに飲み込まれること無く、芸道に邁進するつもりでおります。何卒御来駕、御高覧賜ります様、御願ひ申し上げます。

神遊

【猩々乱】不老長寿を寿ぐ祝言の舞。緩急自在な特殊なリズムに合わせ、波の上で可憐な少年の妖精が酒に酔い、乱れ、軽やかに戯れ遊ぶ様子を、観世流宗家による舞囃子でお楽しみください。

【月見座頭】中秋の名月の夜、月見に居合わせた下京の座頭（シテ）と上京の男。座頭の月見とは風流だと話しかけ、互いに和歌を詠み合い、酒を酌み交わし、互いに謡い舞って楽しむが、やがて分かれた後、上京の男はふと気が変わり、立ち戻って座頭にいきあたり、声を荒げて喧嘩をしかけ突き倒して去っていく。座頭物のなかでも名曲といわれる本曲を、非常に定評のある山本東次郎・則直兄弟にてご覧下さい。

【道成寺】紀州・道成寺では、訳あって久しくなかった鐘がこのたび再興され、供養がとりおこなわれようとしていた。女人禁制のその場に一人の白拍子（前シテ）が現れる。供養として鐘のもとで舞う白拍子。そのうちに女の子が一変、烏帽子を払い落とすや鐘の中に飛び入り、同時に鐘は轟音とともに落下する。あわてふためく能力（アイ）に、住僧（ワキ）は鐘にまつわる物語をする。昔、真砂の莊司の一人娘が熊野詣の山伏に恋慕したが叶わず、道成寺の鐘の中に逃れた山伏を、大蛇に姿を変じて鐘もろとも焼き尽くした。先刻の白拍子こそ、その娘の怨霊に違いない。僧たちが祈禱によって鐘を引き上げると、そこには大蛇の姿。僧たちと蛇体の鬼女（後シテ）との激しい攻防が始まる。

【今昔物語集】などによって広く知られる執心の物語。その後日談の形をとる能（道成寺）は、先行する古作（鐘巻）では詳しく語られていた道成寺縁起の部分を大幅に削ってまで、乱拍子・鐘入り等々の演技・演出の数々を追求した大曲である。鐘が舞台上に登場したところからすでにドラマは始まり、アイが女人禁制を触れると見所もその劇的空間に取り込まれていくのである。小書「赤頭 中之段数調 無躰之崩」による、「乱拍子、急之舞、装束等の諸要素が常と異なる演出の「道成寺」を、神遊ならではの顔ぶれでお届けいたします。

舞囃子 猩々乱

観世 清和

大鼓 柿原 崇志 太鼓 観世 元信  
小鼓 宮増 純三 笛 一噌 庸二

狂言 月見座頭

シテ 山本東次郎

アド 山本 則直

能 道成寺

シテ 観世 喜正

ワキ 宝生 閑  
ワキツレ 森 常好  
ワキツレ 宝生 欣哉

大鼓 柿原 弘和 太鼓 観世 元伯  
小鼓 宮増 新一郎 笛 一噌 隆之

間 山本 泰太郎  
山本 則重

後見 観世 喜之  
奥川 恒治  
五木田 三郎

地謡 坂真太郎 上田 公威  
鈴木 啓吾 関根 祥人  
遠藤 喜久 観世 清和  
藤波 重彦 浅見 重好

鐘後見 観世 暁夫  
西村 高夫  
清水 寛二

岡田 麗史  
長山 桂三



観世清和



観世喜之



宝生 閑



山本東次郎



一噌庸二



宮増純三



柿原崇志



観世元信



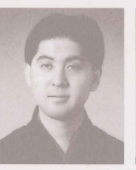
一噌隆之



柿原弘和



観世元伯



観世喜正



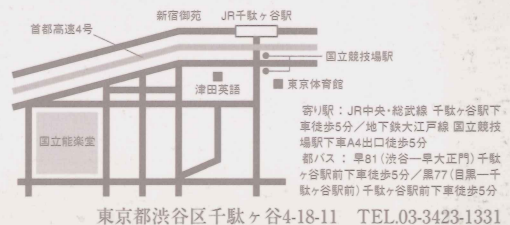
宮増新一郎

English Program Available

平成13年10月26日(金) 開演午後6:30/開場午後5:45 国立能楽堂

全席指定 正面席 13,000円/脇正面席 10,000円  
中正面席 8,000円/学生4,000円(中正面席 限定20名) 予約開始 8月20日(月)

お問い合わせ・お申し込み: 神遊 03-5227-1830 mail@kamasobi.com  
チケットぴあ 03-5237-9988 @ぴあ http://www.pia.co.jp 主催: 神遊 助成: 芸術文化振興基金



東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-11 TEL.03-3423-1331